

令和4年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：コムギ黄斑病

令和4年5月20日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

県西部の一部の地域でコムギ黄斑病の発生が確認されている。発生時期や発病程度により、薬剤の効果は大きく変わるため、発生状況をよく確認し、防除を行う。また、本病は被害残渣が一次伝染源となるため、令和4年播きコムギにおいて、以下のとおり適切に対策を行う。特に多発生ほ場では対策を徹底する。

2 防除対策

(1) 被害残渣の適切な処理

- ・ 水稲との輪作もしくは夏期の代かき湛水を行う。
- ・ 可能であれば被害残渣をほ場外に持ち出し、処分する。
- ・ 収穫後に早めに被害残渣をすき込み、腐熟を促す。

(2) 薬剤散布

- ・ ワークアップフロアブル等により赤かび病との同時防除を行う。
- ・ 融雪後から赤かび病防除時期までに下位葉に病斑が確認される場合は、上位進展前にチルト乳剤25等を散布する。

| 薬剤名 | 希釈倍数 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 |
|-------------|-------|-------------|---------|---------|
| チルト乳剤25 | 1000倍 | 60～150L/10a | 収穫3日前まで | 3回以内 |
| ワークアップフロアブル | 2000倍 | 60～150L/10a | 収穫7日前まで | 3回以内 |
| | 500倍 | 25L/10a | | |

3 コムギ黄斑病の生態（参考）

- (1) 主に葉に発病する糸状菌病害である。一次伝染源は被害残渣であり、下位葉に発生したのちに上位進展する。
- (2) 発病初期は葉に黄褐色で楕円形の小型病斑が生じ、次第に拡大して灰褐色の大型病斑となり、葉が枯死する（写真1、2）。早期に上位葉に発生すると、収量および品質に影響を及ぼす。
- (3) コムギのみに発生する（オオムギには発生しない）。
- (4) 発病には品種間差がある。
- (5) 一般的に前作が水稲のほ場は、前作が畑作物のほ場やコムギ連作ほ場と比較して、発生が少ない。



【写真1 コムギ黄斑病の症状】



【写真2 コムギ黄斑病の病斑】